Vol.84　オルタード・テンションを絡めたソロの基礎知識　～その 2～

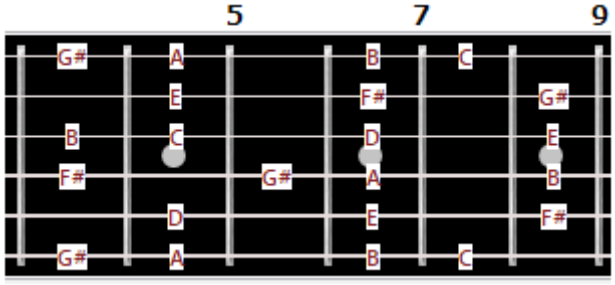
では、『10 分トレ』vol.84、始めていきましょう。

引き続き、オルタード・テンションの使い方について学んでいきます。

前回、オルタード・テンションの位置を確認したわけですが、それらの音をすべて含んでいるスケールとして、オルタード・スケール(オルタード・ドミナント・スケール)がありますね。

このスケールは、構造的にはメロディック・マイナーを半音下から始めたものと同じです。

図 1、A メロディック・マイナー＝G♯オルタード・ドミナント

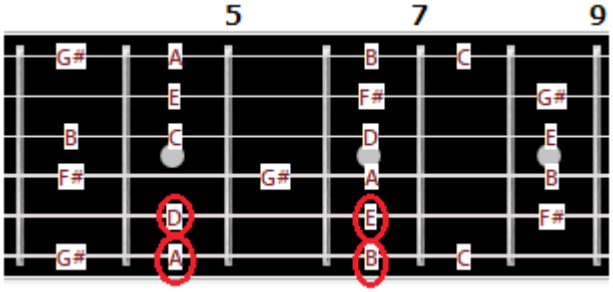


オルタード・スケールのインターバルは、

tonic、m2nd＝♭9th、m3rd＝♯9th、M3rd(＝dim4th)、dim5th、m6th＝♭13th、m7th

となっていて、赤字の音がオルタード・テンションとされていますね。

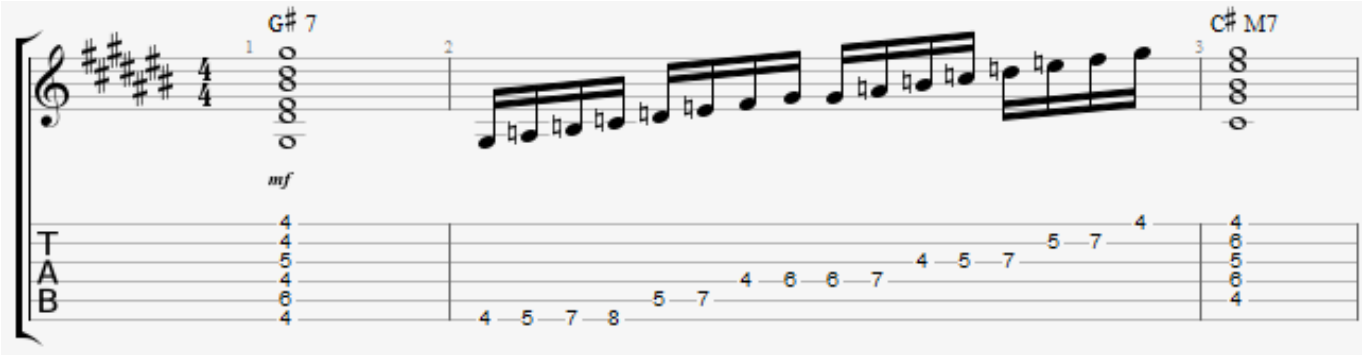
図 2、G♯オルタード・スケールで見るオルタード・テンション(1 オクターブ内)



おそらく、このスケールを弾き始めた最初の内は、響き的にどこに安定したらいいのかが分かりにくいと思うので、以下の様に練習してみましょう。

譜例 1、G♯オルタード・スケール、練習フレーズ

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

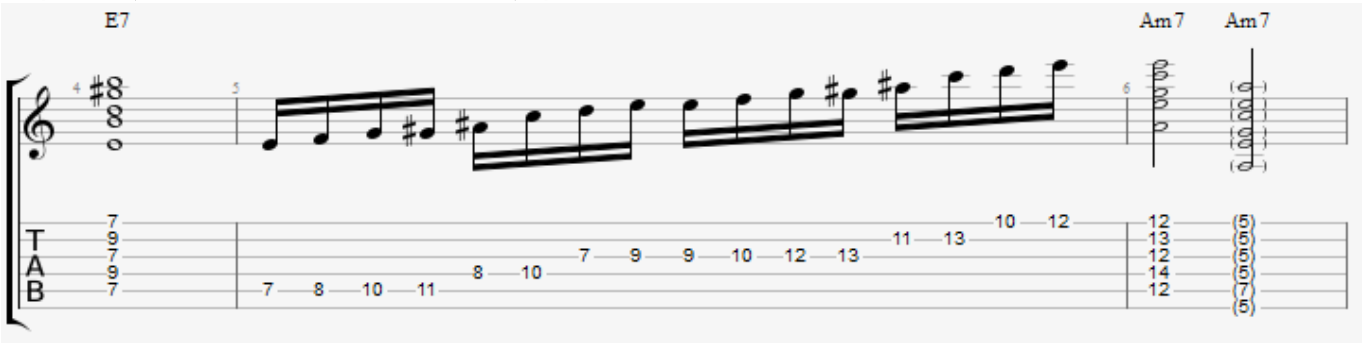


最後に解決するコードは、譜例ではメジャーコードになっていますが、ここはマイナーのトニックに解決しても構いません。(※譜例 1 の場合なら C♯m7 も可)

これを元に、5 弦トニックの方でも、オルタード・スケールを見てみましょうか。

今度は、前回やっていた key=Am で弾いてみます。

譜例 2、E オルタード・スケール、練習フレーズ



実の所、今回弾いたオルタードのポジションは、オルタード・スケールとしては若干使いにくいのですが、メロディック・マイナーの観点を含めた基礎として大事なので覚えておきましょう。(※実質メロディック・マイナーを半音下から始めただけなので)

もっと単純に使いやすいものは、次回以降にやっていこうと思います。

この辺り、詳しくは別途配布している【教科書】の終盤でも解説しているので、そちらも参考にしてみて下さい。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved